

# 令和2年度 学校教育自己診断の考察

大阪府立泉鳥取高等学校

## 1 生徒の部

### (1) 評価の高かった項目

肯定的意見が比較的多いのは、「4 学習の評価はテストだけでなく、生徒の努力や需要に取り組む態度等を含めて行われている(72.6)」「19 普段から遅刻しないよう心掛けている(79.5)」「24 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある(70.6)」である。

### (2) 評価の低かった項目

逆に肯定的意見が少ないのは、学力面では「3 自分の学力の向上を実感している(47.6)」である。ただし、「2 教え方に様々な工夫をしている先生が多い」の項目に67.1%肯定的意見が出ており、授業の工夫は理解できるが、自分の学力になかなか繋がらない気持ちを持つ生徒が20%程度存在していることがわかる。

そのほかには「16 生徒相談室の利用方法を知っている(36.0)」と、「22 学校は、部活動が活発になるように取り組んでいる(43.4)」となっている。

### (3) 昨年度から変化した項目

昨年度と比較して、大きな変動のあった項目について考察する。全体的にコロナ禍の影響か、多くの項目で肯定的意見が減少している。その中で肯定的意見が向上したのは、「24 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある(66.1→70.6)」がある。新型コロナウイルス感染症をきっかけに、改めて命に向き合う取組みが増えた結果である。

また、とくに肯定的意見が低下した項目は、「12 他の先生が授業を見学に来ることがある(66.7→52.6)」である。令和2年度は、生徒の授業時間の確保に大きな労力が必要となり、他の教員の授業見学そのものを企画できなかったことが大きい。

次に「20 文化祭は、みんなが楽しくなるよう工夫されている(70.9→57.5)」である。これも新型コロナウイルス感染防止のため、短縮簡易版での文化祭しか実施できなかったことが影響している。

## 2 保護者の部

### (1) 評価の高かった項目

70%以上の肯定的意見は、「4 学校はテストの得点だけでなく、いろいろな面から

学習の評価を行っている (76.9)」「5 学習の評価は、客観的で公平であり、納得できる (72.3)」「8 子どもの将来の進路や生き方について、子供と話し合う機会がある (75.6)」「17 子どもは、学校へ行くのが楽しいと言っている (71.1)」「18 子どもが遅刻しないように気に掛けている (88.4)」「25 学校は、ホームページやPTA新聞、メール配信などで教育情報の提供に努力している (70.2)」の6項目となっている。

## (2) 評価の低かった項目

肯定的意見が5割を切る項目は2項目あり、「15 生徒相談室の利用方法を知っている (28.1)」「21 学校は、部活動が活発になるように取組んでいる (35.1)」「23 学校がさまざまな機会を通じて、地域と交流していることを知っている (37.2)」であった。

## (3) 昨年度から変化した項目

昨年度から大きく向上した項目は6項目あった。「1 内容がわかりやすい授業が多いようだ (50→55.4)」「2 学校の授業は、基礎学力の向上に重点を置いている (59→64.5)」「4 学校は、テストの得点だけでなく、入り口な面から学習の評価を行っている (70→76.9)」「14 学校は、すべての教育活動において子どもの人権を尊重する姿勢で指導に当たっている (53→60.3)」「16 学校の生活指導の方針に共感できる (47→55.0)」「25 学校は、ホームページやPTA新聞、メール配信などで教育情報の提供に努力している (61→70.2)」いずれも、コロナ禍の中で家庭と学校が密接に連携をとった成果であるとみている。

## 3 教職員の部

教職員については、評価の高かった項目および低かった項目については省略し、昨年度との比較を中心に考察する。

### (1) 評価が向上した項目

教職員で肯定的評価が5ポイント以上向上したのは、

- 5 学校全体として、ICTを使って授業を展開している (72→85.2)
- 6 年次からキャリア教育の目標を設定し実践している (54→63.3)
- 11 職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討の場として、気軽に話し合えるようにしている (44→61.2)
- 27 授業において、生徒が理解できている手ごたえがある (66→73.5)
- 36 学校経営計画に照らして目標を設定し、教育活動を行っている (66→79.6)
- 37 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている (68→77.6)

という項目であった。平成 31 年度には普通教室の電子黒板が導入が完成、令和 2 年度、同窓会・PTAによってタブレット型パソコンの寄付でハード面が充実、さらにコロナ禍による臨時休業に伴うウェブ授業の早期構築で ICT 機器の活用が向上した。また、国全体で「キャリア・パスポート」が導入されたことにより、キャリア教育の計画が「探究の時間」を中心に位置づけられてきている状況を示している。

## (2) 評価が低下した項目

評価が 5 ポイント以上低下した項目は、いずれもコロナ禍による行事や部活動にかかわる内容となった。

7 進路についての情報をよく知らせている (82→69.4)

8 生徒の進路や生き方について考える機会を設けている (88→79.6)

これについては、年度当初の臨時休業や行事の中止や差し替えで、1 年生 2 年生で行っていた進路の体験的行事が実施できていないことから数字の低下を招いている。

18 生徒が楽しくなるように文化祭を工夫している (94→85.7)

20 部活動が活発になるように取り組んでいる。(60→49)

この項目も、行事を最小化する中で、文化祭も感染対策を万全に行い、最小限の取り組みとなったことが数字の低下を招いた。また、部活動も 4 月から大きく制限される中、活性化への取り組みが行えなかった。

25 教育相談体制が整備されており、生徒は担任外の教職員とも相談することができる。(92→81.6)

コロナ禍で不安定要因を抱える生徒が増加し、多くの教職員が教育相談体制に注目、その中 S C の時間数等の容量が小さいことが認識された結果と考えられる。